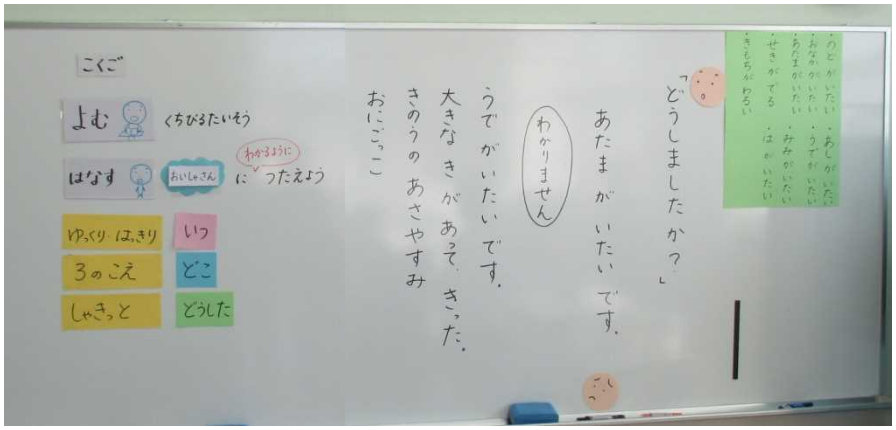
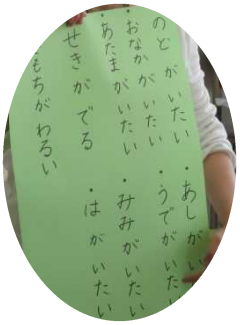
なかよし学級　国語科　単元名「〇〇さんに つたえよう」

日常生活で、自分の気持ちや考えを相手に分かるように伝えるにはどうしたらいいかを学習した。「忘れ物をしたとき、友だちを遊びに誘いたいとき、学校で怪我をしたとき」を前時までに学習し、今回は医者にかかるときを想定して、「おいしゃさんに つたえよう」という場面を設定した。



まず、声の大きさや速さ、発音や態度（恥ずかしがらずに）も相手に伝えるときに大切な要素だと確認し、リズムに合わせて「くちびるたいそう」を音読した。

つぎに、パペットを用いて今回学習する場面を知らせ、伝えるのに何が必要なのかを考えさせた。パペットの失敗例から、「大きい声で言ったらいいよ。」「何が痛いかを言わないといけないよ。」など、前時までの学習を想起した意見が、子どもたちから出てきた。そして、お医者さんに伝えるときに必要な「どうした」を提示して確認した後、ひとりずつ医者役の教師と対応する実践練習をした。



「どうした」の中から自分で病状を選び、声の大きさや速さ、発音などに気をつけながら伝えたり、「いつ、どこ」を意識して詳しく説明したりすることができた。自分の番が終わった後も、「もう一回やってみたい！」という声が上がったので、それぞれの子どもに合った課題や場面設定をし、次時からも継続して学習していくことにしている。